

■高校野球のケーススタディー（第24回）■



一般財団法人兵庫県高等学校野球連盟

高校野球における公式試合や練習試合の中で生じたプレイの中で、“こんなプレイ、ルールではどうなるの？”といった疑問について、ルールの側面から解説します。

○ 【番外編】昨年、メジャーリーグであった珍しいプレイを見てみましょう。

対外試合がオフの期間ですので、今回は、昨年5月にメジャーリーグの試合の中で生じた珍しいプレイについて紹介したいと思います。あまり目にすることがない珍しいプレイですが、高校生の皆さんもルール上の勉強になりますので、参考にしてください。

2021年5月28日（日本時間）、PNCパーク（ピッツバーグ）で行われたパイレーツ対カブス戦でのことです。

1対0でカブスのリードで迎えた3回表、2死2塁でカブスの攻撃。サードゴロを捕球した3塁手の1塁への送球が本塁の方向へやや逸れました。1塁手がボールを捕球して1塁ベースを踏めばインニング終了のシーン。

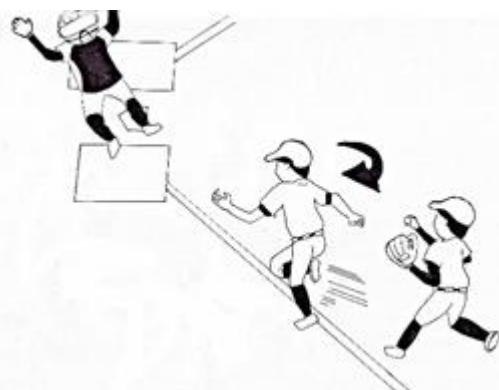
ところが、打者走者が1塁手のタグをかわすため、急停止して本塁方向へ逆走を始めました。ボールを持った1塁手が、本塁方向へ打者走者を追いかけて始めます。打者走者は、本塁付近まで逆走。その間、2塁走者は、本塁へ生還しようとしたため、1塁手は捕手へ送球しましたが、セーフとなりました。

打者走者は、再び1塁へ向かって全力疾走を始めました。捕手は、1塁ベースカバーに入った2塁手へ送球しましたが、送球が逸れ、打者走者は2塁へ進塁しました。

①この場面、1塁手はどのようにすれば得点を防ぐことができたのでしょうか。

1塁手は、打者走者が1塁ベースに触れる前に、1塁ベースもしくは打者走者の身体に触球していれば、得点を防ぐことができました。（規則 5.09(a)(10)）

1塁手は、打者走者を追わずにそのまま1塁ベースに触球すれば3アウトとなり、得点につながることはありませんでした。1塁手は、打者走者を本塁付近まで追いかけていたため、2塁走者が目の前で本塁へ突入したのを見て、咄嗟に捕手へ送球してしまったのでしょうか。



公認野球規則 5.08(a)【例外】では、次のように規定されています。

第3アウトが次のような場合には、そのアウトにいたるプレイ中に、走者が本塁に進んでも、得点は記録されない。

(1) 打者走者が1塁に触れる前にアウトにされたとき。(2)、(3)は省略)

② 捕手が1塁手からの送球を受けた後、1塁へ送球することで打者走者をアウトにしていれば、得点はどうなっていたのでしょうか。

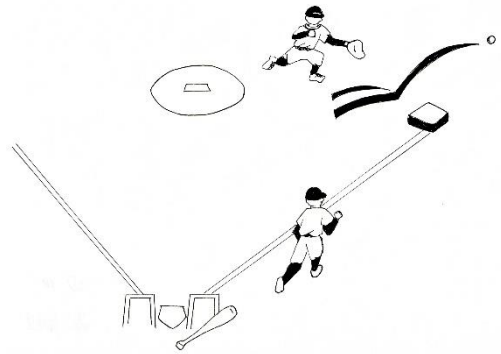
2塁走者が本塁へ到達した後でも、打者走者を1塁でアウトにすることで、3アウトにすれば前記のように、打者走者が1塁に触れる前に第3アウトが成立していますので、得点が入ることはありませんでした。

このケースでは、捕手の悪送球により打者走者を生かしてしまいましたが、正確に打者走者を1塁でアウトにしていれば、得点されることはありませんでした。

③ 今回は、捕手の1塁への送球が悪送球になってしまいましたが、もし、打者走者が正規の走路を走らず、捕手からの送球を捕らえようとする野手の守備を妨害していれば、どうなるのでしょうか。

規則 5.09(a)(11)により、打者走者は、守備妨害でアウトが宣告されます。

したがって、すでに2塁走者は本塁へ到達していますが、打者走者が守備妨害により1塁に到達する前に第3アウトが成立しますので、得点は記録されません。(6.01(a)インターフェアに対するペナルティ：ただし書き)



ほとんどの選手は今回紹介したケースに遭遇したとき、1塁で打者走者をアウトにすると思いますが、このように普段、自然に行っているプレイについて、ルールの側面からプレイを分析してみると、更に理解が深まることでしょう

表題デザイン・イラスト協力：兵庫県立姫路工業高等学校デザイン科

表題デザイン：桂 楓杏さん（3年）

イラスト：野口 真奈美さん（2年） 森 雛里さん（2年）